

# 鼻

三年 画数 14  
 筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌ ㇍ ㇎ ㇏  
 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌ ㇍ ㇎ ㇏  
 はな



成り立ち

はなの形をあらわした「自(2年153)」に、「はな」の音  
 びをあらわした「鼻」をくわえて作った字です。

「自」が、「自分」といういみにつかわれるようになった  
 ので、この字はそれにゆずってしまい、この字に、「鼻」  
 をくわえて「鼻」とし、これを「はな」をあらわす字と  
 しました。それが「鼻」となりました。

鼻はいろいろないみにつかわれます。

「鼻にかける」|| あきあきすること。

「鼻をあかす」|| あい手を出しぬいて、あつといわせる  
 こと。

使い方

- ▽〇〇くんは、べん強がでできるのを鼻にかけているよう  
 だ。あまりじまんがすぎると、かんじがよくない。
- ▽〇〇くんは、野球のしあいで、ホームランを打った。  
 だいじなところでの一ぱつだったから、さぞ鼻が高い  
 だろう。

熟語例

- ▽鼻孔(鼻のあな。「なんともいえない、いいにおいが  
 鼻孔のあたりにただよって来た」などというふう  
 につかいます。)
- ▽耳鼻科(耳と鼻のびよう気をもちりようする医科。「花ふ  
 んしようになったので、耳鼻科のおいしやさまにみて  
 もらった」などというふうにつかいます。)
- ▽酸鼻(むごたらしく、いたましいこと。「ひこうきが  
 いらくしたげんばは、酸鼻をさわめた」などという  
 ふうにつかいます。)
- ▽鼻祖(あることをさいしよにはじめた人。元祖)

# 筆

三年 画数 12  
 筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ふで

成り立ち



ふでを手にもった形をあらわした「聿」に、ふでの柄  
 のざいりよの「聿」をくわえて作った字で、「ふで」を  
 あらわした字です。

「聿」が「ふでを手にもった形であることは、「書(2年  
 162)」という字の「聿」があらわしています。

「ふでを使って字を書く」ものですから、「字を書く」  
 といういみにつかいます。【例】自筆の手紙。

また、「書いた字」や「書いた絵」のいみにもつかいま  
 す。【例】国王の真筆、曲筆。

使い方

- ▽鉛筆と万年筆とでは、鉛筆の方が好きです。万年筆は  
 時々インクもれがするし、書き間違えた時、書き直し  
 ができません。
- ▽わたしのおとうさんは、夏目漱石の自筆の色紙を持っ  
 ています。おとうさんの一番の宝物なのだそうです。

熟語例

- ▽自筆(本人が書いたものであること。「自筆の署名をお  
 願いします」といえば、「その名の本人が、自分自身で  
 名前を書いて下さい」といういみになります。)
- ▽真筆(本当に、その人が書いた字。「この書は弘法大師  
 の真筆といわれています」などというふうにつか  
 います。)
- ▽曲筆(事実を曲げて書くこと。また、その書いたもの。  
 「その通説には、後世の歴史家の曲筆がある」などとい  
 うふうにつかいます。)
- ▽筆跡(字の書きぶり。書かれた字の跡。「いつもと筆跡  
 が少し違うようだ、どうしたのだろう」などとい  
 うふうにつかいます。)